



### 連載 資産運用「茶飲み話」(14)

岡本 和久

おカネは額に汗して稼いでこそ尊い

まさにその通りだと思えます。おカネは額に汗して稼いでこそ尊い。しかし、そのあとによく次のような言葉が続きます。

「だから、投資のような金が金を生むというのはけしからん」。

かなり見識が高いと言われる評論家の方でもよくそのようなことをおっしゃいます。でも、良く考えてみると金が金を生むのが良くないのであれば、

銀行に預金して利息をもらうのも NG ということになります。ただ、ひたすら招き猫の貯金箱におカネをチャリン、チャリンと入れ続けるのが良いのでしょうか？額に汗して稼いだおカネですからとても貴重なものです。そのお金を払って何かを買うということは、その何かに価値があるからです。そして、その価値を生み出してくれた人たちに対して感謝の心があるから大切なお金を払うのです。お金は「感謝のしるし」以外の何ものでありません。



企業だって良い世の中づくりに貢献しているからお客さまから商品やサービスを買っていただける。それが売り上げになる。企業は従業員に「いい仕事をしてくれてありがとう」という気持ちがあるから給料を払う。お金と感謝は手に手をとって世の中を巡っています。

お金やお金持ちのイメージが悪いのは事実です。世の中のためにならず、感謝もされず、ただ、お金だけを得ようという人も時々います。人から盗んだり、人をだましたりして儲けようとする人がいるのも事実です。でも、それはすぐにばれます。そして、ひどい目にあいます。それが、お詫び会見や、強制捜査のテレビ画面などで流されてお金やお金持ちのイメージがどんどん悪くなる。

Aさんは、一生懸命に働き、稼いだお金を持っています。それをずっと先の将来、自分の夢をかなえるために増やしたい。一方で、今すぐにお金が必要なBさんがいます。そこで、AさんはBさんに自分のお金を用立ててあげます。Bさんはそのお金を使って世の中のためになるビジネスをします。そして、世間から感謝され企業は大きく育ちます。そして得た「感謝のしるし＝お金」をAさん



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

に、「自分がお金を必要としている時に、貴重なおカネを使わせてくれてありがとう」という気持ちを込めて利益の一部を渡します。自分が用立てたお金が戻ってくるから「リターン」というのです。

こうして、Aさんのお金は増えていきます。これが投資なのです。投資のための手段が株式や債券です。債券であれば、ビジネスが成功しようと失敗しようと、一定の金利を毎年支払ってもらい、期限が来たら借りたお金を返してもらえます。株式であれば、自分が出したお金の額に応じて利益の一部を毎年、配当金として受け取り、残りの利益を内部留保として企業のなかに貯めていくことができます。でも、事業がうまくいかなければ十分な投資収益は得られないかもしれません。それがリスクというものです。

お金は貯金箱に入れておくだけでは生きてこないのです。世間に回してこそ、良い世の中がつくられていくのです。お金は額に汗して稼いでこそ尊い、だからこそ、その尊いお金を良い世の中づくりのために循環しなければならない。そうしてこそ初めておカネが生きてきます。そして、自分にとっても投資の成果を得ることができるのです。投資の原点は、みんなが「品格ある資産家」を目指すことで良い世の中がつくられていくというところにあります。

### なぜ、貯めるだけでは足りないか

「ちゃんと貯金しているからだいじょうぶ。投資なんて必要ない」と思っている方、いませんか？そういう方は相当の高給取りか、ものすごい資産家だろうと思います。でも普通の人はやっぱり貯めているだけでは老後のおカネが足りなくなります。なぜか？

人生は三つのステージに分かれます。学びの時代、働く時代、退職後の時代です。（私は退職後の時期を「遊びの時代」と呼んでいます。つまり、楽しいことをするとそれがそのまま世の中のためになるのが遊びだという意味です）

学びの時代は基本的に自分だけでは生活に十分なお金を稼げません。子供のころ、学生時代はもちろん、就職しても最初は見習いのようなもの。月給はもらえてもそれは先輩が稼いでくれた収益の一部をもらっているのがふつうです。

退職後になると基本的には「収入<支出」です。そうすると真ん中の働きの時代には、毎日の生活と子育て、新入社員育て（自分だって子供のころ、新入社員のころ、親や先輩の世話になったのだからこれは当然でしょう）、そして自分の老後のためのお金を準備しなければなりません。だからミドルは大変なのです。

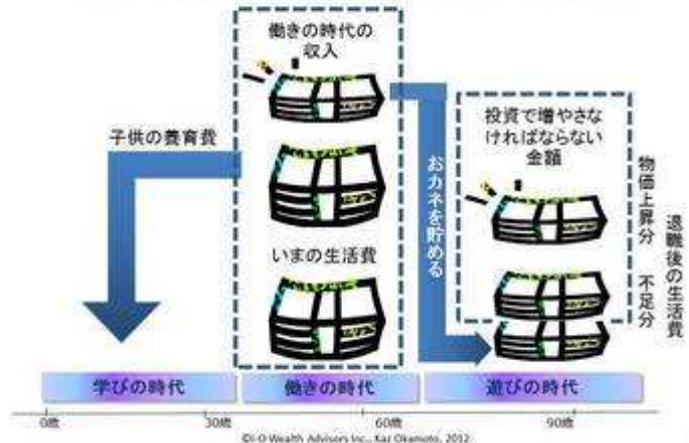


## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

この図を見てください。

働きの時代の総収入が生活費と子育て費用の総額と将来のための資金を上回っていれば問題ないのです。しかし、普通の人にはそうはいかない。それでは退職後の資金がどれくらい必要かという現在のライフスタイルをある程度、維持するための資金の総額と物価の上昇分です。一時的にデフレがあっても、30年単位のライフ・ステージを考えればやはりその備えが必要です。

### なぜ、貯めるだけでは不十分か



そうすると、どうしてもライフスタイル維持費用と物価上昇分の合計ぐらいにおカネを「増やして」おかなければならない。つまり、「貯める」と「増やす」のは違うのです。典型的な「貯める」は貯金箱におカネを入れていくこと。銀行に預金を預けるのは完全な「貯める」よりは少しだけ「増やす」に近いのですが、それが雀の涙であることはご存じでしょう。本当の「増やす」は貯めたおカネの一部だけでも自分のとれる範囲でリスクをとって資産運用することなのです。年金にあまり期待できない今、将来の自分は今の自分が支えるために、自らおカネを「増やす」ことが大切です。

### 資産運用、失敗への三段階と薬

インドの伝統医学、アーユルヴェーダの日本における第一人者で、私もお世話になっている蓮村誠先生が Facebook 上に以下のようなコメントを掲載されました。

- ① 人が間違っただけの行為をしている時、それには 3 つの段階があります。一つ目は、単なる勘違いや思い込み。これは正しい知識を持つ事で訂正できます。例えば健康に良いと思い込んで水を毎日 2 リットル飲んでいる人が、実は身体を冷やすので良くないと知ればやめる事ができます。
- ② 2 つ目は、1 つ目の状態が進行し、正しい知識を持っていても間違いを訂正できない段階。例えば過食症。食べ過ぎている事を分かっているのにやめられない、身体に良くないと知りながら食べ続けてしまいます。過食後に嘔吐するのは食べ過ぎが良くないと分かっているからです。
- ③ 3 つ目は、さらに進行した段階で、もはや自分の間違いに気づく事ができません。嘔吐する事もなく過食を続け、やがて肥満、高血圧、糖尿病などの病気になってしまいます。では何故人は間違っただけの事をするのでしょうか？ 人である限り間違える事は仕方がないのでしょうか？

このコメントに触発されて人生を通じての資産運用における「失敗への三段階」について書いてみ



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ます。

- ① 投資のことも資産運用のことも何も知らず、また、知ろうともしない。これは無知の段階です。将来の自分は今の自分が支えるという発想もない。「投資は危ない」、「博打だ」と思って、ただ、銀行預金だけをしていればよいと思っている。しかし、ある時、友人が株、投信、FXなどで大儲けをしたと聞くと突然、投機を始め大損をする。そして、二度と投資(実は投機)などするものかと思う。

そのような人に必要なのは投資教育です。基本的な知識が身につくにつれて資産運用の必要性和、どのようにすれば安定的に資産を形成できるかがわかってきます。金融資産全体の配分を重視する、リスクを管理する、コストに注意するなどです。投資教育によってカオスから少しずつ行動が秩序だててきます。

- ② 知識に基づいて投資をしているうちに短期的な暴落などが起こります。それはよく起こることだとは頭では分かっているつもりでもやはり心配になります。恐怖という敵が攻撃してくるのです。もしかしたら、大変なことになるのではないかと、資産運用などしなければよかったのではないかと…と怯えてしまうのです。そして、せっかく始めた「人生を通じての」資産運用を途中でやめてしまうのです。

この段階で必要なのがファイナンシャル・ヒーリングです。心に生まれるストレスを癒してあげる。理論と体験に基づいたアドバイスによって長期投資の長旅を支えてあげることでこの段階の失敗を避けることができます。

- ③ 資産運用に慣れてくると次の敵がやってきます。欲望という敵です。このときの行動は二通りに分かれます。一つは理論通りにやっているのだが、どうもパフォーマンスが「かったるい」。もっと早く、もっとたくさん儲かるのではないかと。そこで理論を無視して投機に走ります。もう一つのタイプは理論を過信するタイプです。高度な数学・統計学と高性能のコンピュータなどを使って人を出し抜こうとします。でも、結局、両方とも「ゼロサムーコスト＝マイナス・サム」の世界での勝負です。これらは長期で見ればうまくいきません。たまたま幸運に恵まれ、うまくいったのを自分の実力だと思ってしまうのです。

ここで必要なのが「急がない、欲張らない、争わない、考えすぎない」という私が提唱する「リラックス投資」です。蓮村先生の三段階とは少し違うかもしれませんが、人生を通じての資産運用では三つの敵と戦う必要があります。三つの敵とは、無知、恐怖、欲望です。そして、それらに対する薬が投資教育、ファイナンシャル・ヒーリング、リラックス投資なのです。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

### もっと配当金を注目しよう

株主は株式の発行企業に対して色々な権利を持っています。例えば、株主総会に出席して議決に参加する権利、万一、会社が解散することになった場合、残った財産を請求する権利などです。その中でも一番、直接的に重要なのが利益の一部を配当金としてもらえる権利です。ある意味、株主と株式の発行会社の間「絆」となっているのが配当なのです。

株式の価値は未来永劫にわたって支払われる配当金の現在価値の合計であるとされます。つまり、今年、来年、再来年、さらに10年先、100年先の配当金それぞれが、現在、どれぐらいの価値を持っているかを計算して、それを合計したものが現在の株価だということです。もちろん、100年先と言わずとも、5年先でも、10年先でも配当金や、配当金の原資になる利益の予測は非常に難しいものです。また、それは投資家それぞれの判断によって異なります。そこで、ある人は「この株が1000円なら安い」と思い、別の人は「1000円では高い」と判断し、その結果、取引が成立しているのです。

配当金の流れが現在の株価を決める。だから、配当金の原資である利益が重要である。流通市場で毎日、乱高下している株価は、将来の配当金に対する投資家ひとりずつの見通しに変化している結果なのです。企業と株主を結びつける「絆」が配当金です。長期投資のグル、ジェレミー・シーゲル氏はこんなことを言っています。

「経営陣がつねに、あくまで株主の利益のために行動するというなら、配当は重要ではない。だがそうではない大多数の企業では、決定的に重要となる。株主と経営陣との間に信頼関係が築かれ、収益に関する経営陣の発言が裏付けられるからだ。・・(略)・・**配当がなくてはならないほど重要なのは、それが信頼の印となるからだ。**」

企業が会計操作や不正行為などをしていたとしても一般投資家はなかなかそれを知る術がありません。しかし、株主のための配当を払ってくれるということは一番、確かな事実として株主と企業を結び付けています。

多くの投資家が株価ばかりを注目して配当を忘れがちです。でも、上記のような理由で配当は本当に重要です。さらに、配当を再投資することの効果も見逃せません。景気が悪くなり株価が下がり、配当も減ることはよくあることですが、普通は株価の下落率よりも配当の下落率は小さいのです。その結果、もらった配当金でその時の株価で再投資をすると積み立て投資と同じような効果を得ることができます。これを続けていけば持ち株の配当利回りを向上していくことが可能です。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

前述のシーゲル氏の米国株についての試算によると、「1871年から2003年にかけて、インフレ調整ベースで、株式の累積リターンの97%は、配当再投資が生み出してきた。値上り益が生み出した部分は3%にすぎない」ということです。配当金をもっと重視することが市場の活性化にも必要なのではないかと思います。